

秋田県町村会 町村長行政視察 研修報告

～カンボジア・タイ～

No. 1

藤里町長 佐々木 文明

◇11月4日(日)
15時に秋田空港集合で、15時45分の飛行機で羽田に向かい、翌日のフライトに備えて専用バスで成田空港に移動し、研修の安全と成果を祈願して結団式を行いました。

◇11月5日(月)

9時前に成田空港に到着し、出国手続き等を済ませて10時50分発のカンボジア・プノンペン国際空港行きに乗り込み、所要時間6時間20分のフライトで到着しました。(★ここからは日本との時差が2時間あるため、現地時間での報告といたします。) 11月上旬から翌年5月までは乾季となり、過ごしやすい気候とのことでありましたが、やはり気温は高く、蒸し暑い感じがしました。

15時に到着し、入国審査等を済ませてから、専用バスで約1時間、カンボジア最大規模のイオンモールにむかい、社員の方より店内の説明を伺いました。ここは、2014年6月にオープンしたとのこと、核店舗となるスーパーマーケットと、190店舗の専門店が入り、そのうちの約3分の1が日系のテナントであるとのこと。

映画館やスケートリンク、レストラン、ヘアサロン、リラクゼーション施設等で構成されており、カンボジア最大規模のショッピングモールとなっております。丁度帰宅時間と重なったため、窓外の往

来や建物等を眺めながら、バイクの多いこと、日本車が多いこと、中には裸足の子どももいたりして、それぞれの様子を口々にしながら、「宿泊先である、「サンウェイホテルプノンペン」に到着し、現地初日の日程を終了しました。



カンボジア最大規模のイオンモール

◇11月6日(火)

11時に在カンボジア日本大使館を訪問し、堀之内秀久特命全権大使からお話を伺うことができました。

9時30分にJICAカンボジア事務所を訪問し、三浦淳一次長から事業内容について説明を受けました。カンボジアへの投資は中国が断トツで多く、その影響もあって年間7%という高い経済成長率を示しております。2014年には高層ビルが1〜2棟程度であったが、今年あたりから多くのビルが建ち始めたとのこと。国の動向としては、1990年代に入り20年以上続いた内戦が終結し、若い国ということ、24歳以下の人口が5割以上の正三角形の人口ピラミッドとなっております。今後の基本方針としては、

①産業振興支援、②生活の質向上、③ガバナンスの強化を通じた持続可能な社会

の実現、を3つの重点分野として、カンボジアへの開発支援を展開し、「2030年までの高中所得国入りの実現に向けた経済社会基盤の更なる強化」を目指すこととしております。



JICAカンボジア事務所にて

カンボジアの面積は日本の約半分の181,035km²、人口は1,630万人で約90%がクメール人とのことで、クメール人とはカンボジアを中心とする東南アジアの民族で、タイ北東部、ラオス南部、ベトナム南部にも住む民族であります。その他は中国人、越人、シヤム人で、宗教については仏教が95%、イスラム教が3%、キリスト教が少数となっております。

9世紀〜13世紀にアンコール王朝が栄え、12世紀前半にアンコールワットが建設され、12世紀後半にアンコールトムが建設されました。その後14世紀以降シヤム並びにベトナムからの侵攻を受けて、1431年からは首都が転々とする「カ

秋田県町村会構成町村長による行政視察研修として、平成30年度においては、発展著しいアセアンにおいて実施することとし、取り分け軍事政権から移行したカンボジアにおいて、日本の貿易振興や国際協力における支援等の取り組みを視察することとしました。

併せて、平成22年度から具体的に取り組んできた、秋田県とタイの交流事業の加速化を促進するため、秋田県からの参加要請を受け、スポーツ交流、観光分野等について秋田県知事を始め、関係諸団体の参加のもと、トップセールスを実施することにしたものであります。

日程といたしましては、11月4日(日)から10日(土)までの7日間にわたり、県内12町村中9町村長が参加して参りましたので、その概要について報告いたします。